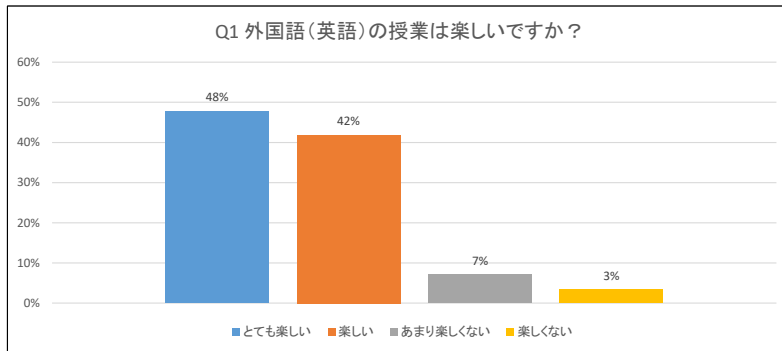
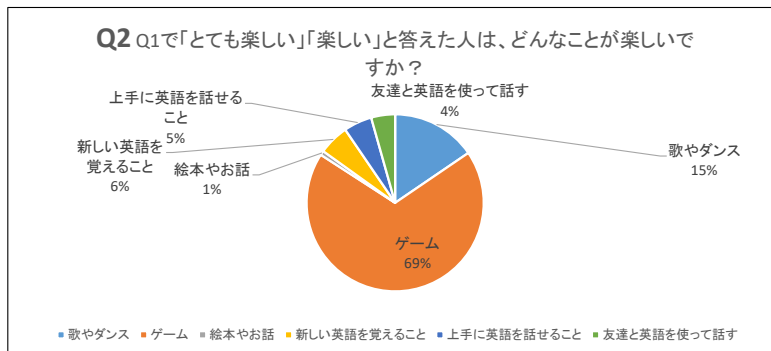


令和7年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(当尾小)



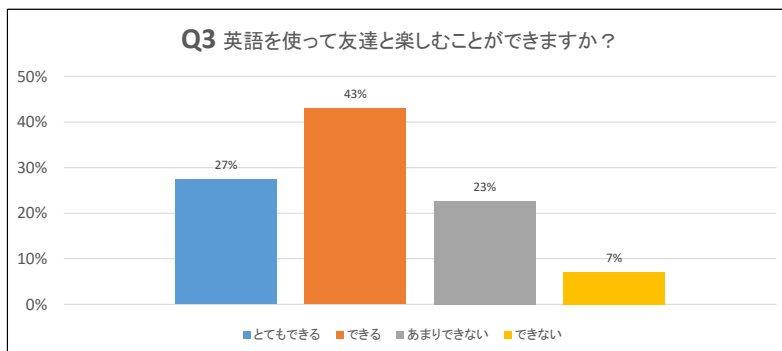
【Q1について】

外国語(英語)の授業の「楽しさ」については、90%の児童が肯定的に回答している。外国語(英語)という教科に本来備わる特性による楽しさに加え授業方法の工夫やALTの活用等により、高い割合を示していることが考えられる。「楽しくない」と否定的な回答をした児童もいる。しかし、そう回答した児童に目を向け、外国語(英語)を楽しめないという原因を分析し、より工夫した授業づくりをしていかなければならない。



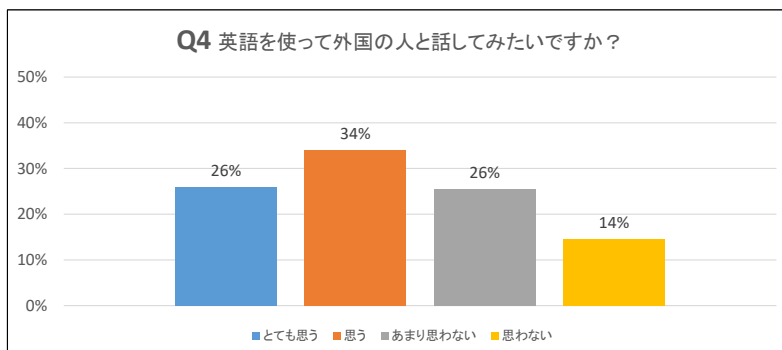
【Q2について】

楽しさを肯定的に回答した児童において、その楽しさの要因を「歌やダンス」「ゲーム」と回答している児童が8割程度である。「歌やダンス」「ゲーム」を授業に取り入れることで、外国語(英語)の楽しさを感じていると思う。また、ALTと一緒にその活動に取り組むことで、楽しいと感じていると考えられる。また、「絵本やお話」、「新しい英語を覚えること」、「上手に英語を話せること」など友達と英語を使って話したり、新しいことに挑戦したりすることが楽しいと感じることができるよう、各学年の発達段階に応じながら、より工夫した授業改善が必要である。



【Q3について】

英語を使って友達と楽しむことに対して、70%の児童が肯定的に回答している。授業においても毎時間の目標に即した会話文を用い、積極的に友達との会話を楽しむ場面は多く見られる。半面、30%の児童が英語を使って友達と楽しむことに対して、否定的な回答をしている。その要因はスキルの面にあるのか、情緒的な面にあるのかを把握し、学年・学級に応じた対策をしていく必要がある。



【Q4について】

英語を使って外国の人と話すことに対して、60%の児童が肯定的に回答している。友達と英語を使って楽しいと感じる児童の割合に対して、外国の人と英語を使って楽しいと感じる児童の割合が低い。このことから、英語を使って外国の人と話すことを楽しむために、ALTと一緒に活動をしたり、英語の授業を通して英語を話したりすることが楽しいと感じるように工夫する必要がある。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

ほとんどの保護者は、外国語(英語)の授業の大切さ、あるいは、子供たちの将来を見据えた上での英会話の大切さをより実感している。また、外国語(英語)の授業参観を望む保護者も多く、外国語(英語)授業についての興味・関心は高い。

【考察・今後の展望等】

英語専科やALT、担任とより深く連携を図り、児童の実態に即し、効果的な授業方法の工夫改善を図っていく。校内研修を中心に、児童が楽しくかつ英会話のスキルがさらに上達できる授業を今後も継続して創造していく。また、保護者や地域の方々に外国語の授業公開を検討していく。